

ほほえみ通信

2022/1/28
発行

第147回 ほほえみ 開催

1月19日（水）第147回 ほほえみを開催しました。
今回は2名が参加してくれました。

2月はコロナの急速な感染拡大を鑑み、中止とさせていただきます。
3月16日(水)は開催予定でございますが、今後の状況で変更になる場合がございます。ホームページや院内掲示をご確認いただきますよう、お願いいたします。
【がんサロン事務局より】

『“頑張る”の言葉に思う』

(がん体験記)

「頑張るってね」――。

誰もが一度は言われたことがあるのではないのでしょうか。私もたくさん言ってきました。たくさん言われてもきました。

でも、がんになって、「頑張る」という言葉に違和感を持つようになりました。それは私だけでなく、ほかのがん患者さんやご家族の方たちも同じでした。

「“頑張る”って、どう頑張ればいいのか？」

「私は頑張っていないのか？」

「これ以上、どう頑張るっていうのか？」――。

私は乳がんの手術をして15年になります。10年を過ぎたあたりから、ようやく“頑張る”の言葉を素直に受け入れられるようになりました。

理由は、その人には悪気がないこと。そして、本当に心からエールを送ってくれていると思ったからです。それに日本語に、ほかに代わる言葉がありません。

なので一時期、がん患者の間で使われるようになったのは、『顔晴る』という言葉(“がんばる”と読みます)。もちろん、造語。顔が晴れ晴れとしている様子や、笑顔でがんばる姿が、少しなごむような気がします。

誰もががんばって治療をして、人生と向き合って生きている。言葉では簡単な“頑張る”。でもやっぱり、「頑張る」と応援したくなるのは、ひとの思い遣りだと思うのです。

(北海道／女性／乳がん／がん患者本人)